

げんばし
源八橋

昭和11年にこの橋ができるまでは、源八渡しと呼ばれる渡し場のあったところ。江戸のころ、渡しの西は役人の宿舎が並ぶ町であったのに対し、東側はのどかな農村地帯であったが、京街道に近く、有名な中野村の梅林があり、また木村堤と称された両岸は桜の名所であったことなどから、当時はよく知られた渡しであったと想像される。蕪村にも「源八」を詠みこんだ句がある。顕彰碑は橋の中央部下流側の歩道上。

交通 JR桜ノ宮駅、西改札を出て南へ100m

寝屋川・平野川を中心に



おおさかばし
大坂橋

大正14年、東横堀川浚渫の際に「大坂橋」の銘がある大きな擬宝珠が見つかった。擬宝珠の立派さから見て高麗橋に匹敵する規模で、大坂築城と深い関わりがあったと想像されるが、この名の橋はどの文献にも見当たらず、どこに架かっていたものか、今も謎に包まれている。



この大坂橋の名をとった橋が、昭和48年に毛馬桜之宮公園と大阪城公園を結ぶ歩行ルートとして建設された。構造は、大阪城天守閣を望む景観に配慮して「頬杖ラーメン」と呼ばれる大阪市内では例の少ない形式が採用された。また、2つの公園を結ぶ歩行者専用橋ということから、橋上にはウバメガシやカツツカイブキなどの植栽が施されている。

交通 JR大阪城北詰駅下車、西へ500m 又は京阪、地下鉄天満橋駅下車、東へ500m

しんしぎのばし
新鳴野橋

大阪城と大阪ビジネスパーク（OBP）の間に架けられている橋で、江戸時代には公儀橋であった「鳴野橋」の架かっていたところである。江戸時代は大阪城内の一部であり、明治以降第2次世界大戦が終わるまで軍の施設であったため数百年間一般の利用は許されなかったが、現在は高欄も擬宝珠のついたものに取り替えられ、大阪城への入口の一つとして主に歩行者と自転車に利用されている。顕彰碑は北詰東側にある。

交通 地下鉄大阪ビジネスパーク駅下車すぐ、京橋駅からはOBPの中を通過して800m

お勧めコース 天満橋北詰から大川端を上流へ歩き、川崎橋を渡る。公園を出て京阪電車の地下道をくぐると大坂橋。橋を渡ってすぐ左に折れ、公園の中を外堀に沿って歩く。大阪城ホールの手前を左に曲がると新鳴野橋に出る。



大阪城天守閣を望む新鳴野橋

のだばし
野田橋

旧鯉江川に架かっていた橋で、江戸時代には京街道の入口にあたるため交通上重要な橋で、公儀橋に指定されていた。川は昭和5～6年の寝屋川の改修に伴い埋め立てられ、橋は撤去された。現在、昭和13年に建てられた碑が京阪高架の南側にある。

交通 JR大阪城北詰駅下車すぐ、京橋駅からは京阪の高架沿いを西へ500m

くろもんばし
黒門橋

黒門橋は、宝永8年（1711年）猫間川に架けられた橋で、たもとは、明治の中ごろまで 暗越 奈良街道を挟んで2軒の茶店があり、俗に「二軒茶屋」と呼ばれ繁盛したという。現在は橋の姿を見ることはできないが、道路の南側歩道に「二軒茶屋」の碑とともに顕彰碑が設置されている。

交通 JR、地下鉄玉造駅下車すぐ

たまつばし
玉津橋

暗越奈良街道が平野川を渡るところに架けられた橋。現在の橋の高欄に奈良街道の古地図がはめ込まれている。

交通 JR、地下鉄玉造駅下車、東へ600m、市バスを利用する場合は、玉造駅又は地下鉄今里駅から幹22に乗り、中本4丁目下車、西へ70m

みどりばし
緑橋

旧千間川に架かっていた緑橋は、木造の緑色の橋であった。それが現在の地名として残っている。顕彰碑は交差点東側、緑道の入口に立っている。

交通 地下鉄緑橋駅下車、北へ70m

やなぎばし えのきばし
柳橋・榎木橋

蛇行が著しかった旧平野川の流路の跡を現在の道路に見ることができる。その近くに当時架かっていた柳橋と榎木橋の親柱が残されている。

交通 JR、近鉄、地下鉄鶴橋駅下車、千日前通を東へ300m、大きな交差点を右へ150m、鶴橋交番の前に柳橋の親柱が、そこから170m東の四辻を南へ行くと、小さな社の前に榎木橋の親柱がある。



つるのはし

はじめに紹介した日本書紀にある「小橋」がこれにあたり、と考えられている。とすれば、文献に登場する日本最古の橋がこの辺りに架かっていたことになる。地理的には上町台地を東へ下ったところ、古代には旧平野川の河口港「猪甘津」があった辺りと考えられる。「つるのはし」は、鶴が多く飛来したからとも言われ、また「津のはし」がなまったからとも言われる。

現在、「つるの橋公園」の中に明治時代のものと思われる親柱と由来を記した碑などが建てられている。

交通 JR 桃谷駅下車、商店街を東へ 500m、信号を渡ったガソリンスタンドの東側



つるのはしの碑

猪飼野新橋

橋には、前方後円形の親柱と勾玉形の束柱を持つ高欄を設置し、5世紀から発達したこの地域（猪甘津）の歴史を表わしている。

交通 地下鉄今里駅下車、南へ 1km、市バスを利用する場合は、同駅から 幹 13、幹 85、幹 85A、幹 35、幹 18 に乗り中川西公園前下車、西へ 250m

せんば しまのうち
旧船場・島之内を中心に

昔の大阪のまちでは、東横堀川と西横堀川に挟まれた区域のうち、長堀川より北を「船場」、それより南、道頓堀川までを「島之内」と呼んでいた。

こうらいばし
高麗橋

慶長9年（1604）に立派な擬宝珠を持つ橋として架けられた高麗橋は、江戸時代12あった公儀橋（幕府直轄管理の橋）の中でも特に重要視され、西詰には幕府の高札（公報板）が立てられたほか、西日本各地への街道の起点とされ、明治9年に道路の制度が敷かれてからはこれを表す里程元標が置かれた。その跡を示す碑が東詰北側に立っている。また、明治3年に大阪で最初の鉄橋として架設されたことも、大阪の橋の中での高麗橋の地位を示していると言える。顕彰碑は里程元標碑横の橋詰広場の中に設置されている。なお、慶長9年当時の擬宝珠が大阪城天守閣に保管されている。

交通 京阪、地下鉄北浜駅下車、東へ 300m

ほんまちばし
本町橋

本町橋は豊臣時代にはすでにあったことが記録に残っており、江戸時代には公儀橋の一つになっていた。大正2年に架けられた現在の橋は現存する大阪の橋の中で最も古く、華麗な石の彫刻で飾られた橋脚を持つ堂々たるアーチ橋である。顕彰碑は西詰南側にある。

交通 地下鉄堺筋本町駅下車、東へ 300m

いまばし
今橋

今橋は大阪の陣を表した絵図などにその名が見られることから、豊臣時代にはすでに架けられていたと推定される。江戸時代に入ると、今橋から西は鴻池をはじめ大きな両替商が軒を連ね、日本の金融センターになるほどの発展をとげた。顕彰碑は西詰北側の高欄に設置されている。

交通 京阪、地下鉄北浜駅下車、東へ 300m

おおてばし
大手橋

大手橋は大阪城の正面、大手門に通じる道路に架かっている。江戸時代、この橋は思案橋とも呼ばれたが、それは西詰がT字路になっているために東から橋を渡ってきた人が北へ行こうか南へ行こうか思案したためという説がある。東詰南側に顕彰碑が立っている。

交通 京阪、地下鉄北浜駅下車、今橋から南へ 300m

のうにんばし きゅうほうじばし
農人橋・久宝寺橋

農人橋もまた江戸期には公儀橋として重要な橋であったが、その名が示すようにそれ以前は農民が利用する粗末な橋であつたらしい。顕彰碑は東詰南側にある。

久宝寺橋の名の由来は、近くに久宝寺という寺があったからとも言い、東横堀開削の際、河内の久宝寺（現在の八尾市）から来た工事関係者がこの辺りに住み着いたからとも言ふ。顕彰碑は東詰北側にある。

交通 地下鉄堺筋本町駅下車、中央大通を東へ 300mで農人橋、さらに南へ 300m 行くと久宝寺橋



高麗橋の高欄



現在の本町橋

くのすけばし かわらやばし
九之助橋・瓦屋橋

九之助橋の名は、この橋と何らかの関係がある人の名前からきていると思われるが詳しいことは分からない。現在の照明灯は大正時代の姿をもとにデザインしたもの。また、西詰にあった住友鋼吹所（鋼の精錬所）にちなんで高欄に精錬風景を表現したパネルがはめ込まれている。顕彰碑は西詰南側にある。

瓦屋橋の東詰一帯は、江戸時代幕府の御用瓦師寺島藤右衛門の請地であり、瓦の生産が盛んであった。このことから、瓦屋橋の高欄と親柱は瓦をモチーフにしたデザインとなっている。顕彰碑は北側の高欄にはめ込まれている。

交通 地下鉄松屋町駅下車、南へ 200m（九之助橋）、500m（瓦屋橋）

やすわたりばし いたやばし ながほりばし
安綿橋・板屋橋・長堀橋

長堀川は江戸初期の元和8年に完成したと伝えられる。沿岸にはさまざまな産業が立地し、長堀川は輸送の大動脈であった。安綿橋の名は、南組の総年寄安井九兵衛と綿屋某が協力して架けたことに由来すると言われている。板屋橋は元禄のころには新橋と呼ばれ、板屋橋となったのは幕末のころからである。長堀橋は紀州街道に架かっていた重要な橋で、公儀橋の一つであった。これらの橋は、昭和39年に完了した長堀川の埋め立てとともに姿を消し、長堀橋は交差点の北東角の植込みに、他の2橋は長堀通の南側歩道に、それぞれ顕彰碑が立っている。交通 地下鉄松屋町駅、長堀橋駅下車すぐ

しんさいばし
心斎橋

最初的心斎橋は長堀川の開削とほぼ同時期の元和8年(1622)に美濃屋岡田心斎によって架けられたという説が有力である。明治6年にドイツから輸入された鉄製弓形トラス橋に架け換えられたが、同42年にヨーロッパ風の石造りアーチ橋にかわり、昭和39年に長堀川が埋め立てられるまで優雅な姿を見せていた。橋は撤去されたが、大阪の象徴でもあった心斎橋を残そうという声が高く、横断歩道橋の上部に石の高欄とガス灯が復元されていた。その後長堀通の整備に併せて地下街の入り口付近にその一部が移設、保存されている。また、明治6年に架けられた鉄橋は鶴見緑地の中に、緑地西橋として形態保存されている。顕彰碑は南側歩道の東側に設置されている。交通 地下鉄心斎橋駅下車すぐ



石造りアーチの心斎橋

よつばし
四つ橋

旧西横堀川と旧長堀川が十字に交差する地点に并べた状に4つの橋が架かっていた。北側から時計回りに上繁橋、炭屋橋、下繁橋、吉野屋橋であるが、一般にはまとめて「四つ橋」と呼ばれている。大坂の名所の一つとして人びとに親しまれ、「涼しさに 四つ橋を四つ渡りけり」(小西来山)など、俳句の題材にもよく用いられた。現在、四つ橋交差点の東側中央分離帯には昔の姿を偲ぶ橋の欄干と顕彰碑が設置されており、高速道路を挟んで東側には小西来山と上島鬼貫の句碑が据えられている。交通 地下鉄四つ橋駅下車すぐ



整備された四つ橋跡

すじかいばし しなりのばし しんまちばし
筋違橋・信濃橋・新町橋

旧西横堀川は慶長5年(1600)に長瀬七郎右衛門によって開削されたと伝えられる。江戸時代のはじめ、西横堀と江戸堀の分枝点に榎木橋という丁字形をした珍しい橋が架かっていたが、後に斜めの橋に架け替えられて筋違橋と名づけられた。信濃橋は古くは富田町橋、その後は問橋と呼ばれていた。新町橋は寛文12年(1672)に架けられ、瓢箪町の入口にあったことから「ひょうたん橋」とも呼ばれた。付近には遊郭や道頓堀の繁華街があり、橋の上まで夜店が並ぶなど大いに賑わったという。これらの橋は昭和39年から46年にかけて行われた西横堀川の埋め立てで姿を消した。顕彰碑はそれぞれの橋の親柱とともに架橋位置に設置されている。交通 地下鉄肥後橋駅下車(筋違橋)、本町駅下車(信濃橋、新町橋)

えびすばし
戎橋

心斎橋から南へ700m、道頓堀に架けられた橋が戎橋である。今宮戎に通じる橋であるところからこの名がついたとも言われる。大正14年に架けられた現在の橋は、当時の川幅36メートルを一気に跨ぐ美しい石張りのコンクリート・アーチ橋である。

屋から夕方にかけては観光客で、夜から朝までは若者たちで人影の絶えることがない。いま大阪で最も賑わっている橋である。南側の東西道路は、一般に「道頓堀」と呼ばれ、江戸時代は芝居小屋の立ち並ぶ一大興行街であった。今も近くに上方歌舞伎のメッカ松竹座があり、橋のたもとには「船乗り込み」に使われる船着場がある。北詰西側には歌舞伎をモチーフにした顕彰碑が設置されている。

交通 近鉄、地下鉄難波駅下車、北へ100m

さのやばし なかばし
佐野屋橋・中橋

江戸時代、佐野屋橋から西は大坂屋の浜と呼ばれ、大坂屋久左衛門の銅吹き工房があった。中橋は長堀橋と心斎橋の間にあったことからこの名前がつけられた。佐野屋橋の顕彰碑が南側歩道の植樹帯の中に、中橋の親柱が中央分離帯の中にそれぞれ据えられている。

交通 地下鉄心斎橋駅下車すぐ(佐野屋橋)、東へ200m(中橋)



だいくくばし
大黒橋

木津の大黒神社の参道にあたることからこの名がある。昭和5年完成の現在の橋は河川浄化用の可動堰を併設した珍しい橋である。顕彰碑は南詰にある。

交通 近鉄、地下鉄難波駅下車、北西へ200m